

ジンコソーラー高効率ソーラーパネル 土地を最大限利用できるように助力

2020年2月10日、太陽光発電業界で初のRE100に加盟した太陽光発電企業ジンコソーラーは日本の和歌山県の山間地での地上発電所に、8,736kWの高効率ソーラーパネルを提供したと公表した。

メガソーラーの敷地面積は約170,000㎡で、27,300枚のジンコソーラー高効率ソーラーパネルを採用した。2016年6月から太陽光発電設備の設置工事を開始し、2018年9月より稼働を開始した。



和歌山県山間太陽光発電所

日本で公表されている「第5次エネルギー基本計画」では、エネルギーの「3E+S」(3つのE(エネルギーの安定供給、経済効率性の向上、環境への適合)+S(安

全性)) の原則をさらに発展させ、より高度な「3E+S」を目指すため、4つの目標を掲げている。

- ① 安全の革新を図ること
- ② 資源自給率に加え、技術自給率とエネルギー選択の多様性を確保すること
- ③ 「脱炭素化」への挑戦
- ④ コストの抑制に加えて日本の産業競争力の強化につなげること

2030年に実現を目指すエネルギーミックス水準：再生可能エネルギーの電源構成比率 22～24%。この目標を実現するためにも、土地を最大限に利用して、効率的な製品を採用しなければならない。

ジンコソーラーは、世界非常に革新力がある太陽光発電会社として、2013年より日本市場に進出してから2019年まで、現地の会社と協力して、日本市場に高効率製品とサービスを提供している。同社は今まで日本向けの太陽電池モジュールの総出荷量が約3GWに達した。

ジンコソーラー (JinkoSolar Holding Co., Ltd.) について

ジンコソーラー (NYSE: JKS) は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦 (UAE)、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他諸国にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションサービスを提供、販売しています。2019年9月30日時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築し、年間生産能力は、シリコンインゴットとウエハーが14.5GW、太陽電池が9.2GW、太陽光発電モジュールが15GWに達しています。

生産拠点は世界で6ヶ所あり、日本(2)、シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オー

ストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦と 15 か所の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、ナイジェリア、ケニア、南アフリカ、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員 12,000 人以上を雇用しております。